

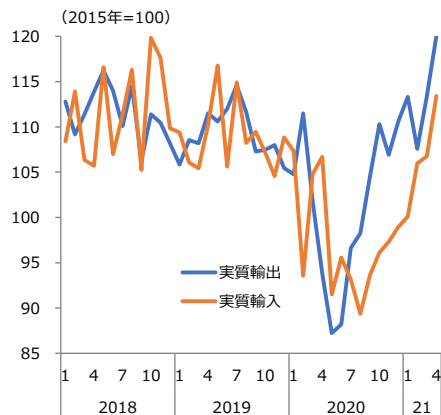
日本

貿易統計 (2021年4月)

米国向け輸出が増加、今後は米中向けが輸出回復をけん引

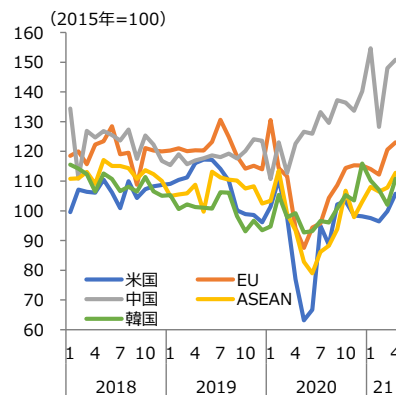
政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 実質輸出入



注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

2 実質輸出：国・地域別

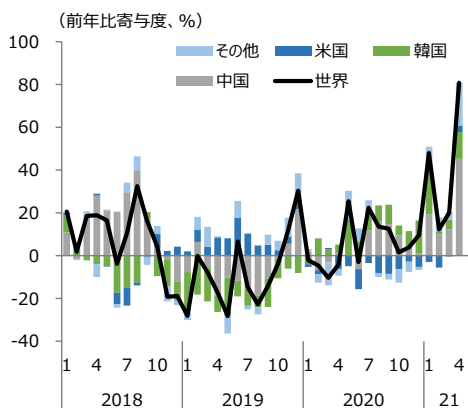


評価ポイント

今回の結果

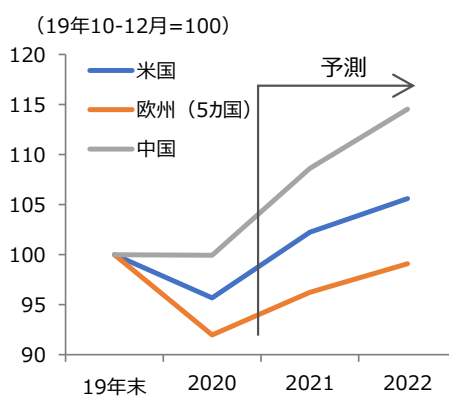
- 21年4月の実質輸出（当社による季節調整値）は前月比+5.9%、実質輸入は同+6.2%（図表1）。輸出入ともに高い伸びとなった。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、経済回復ペースが高まっている米国向け（前月比+5.9%）が高い伸びとなった（図表2）。米国向け輸出の中心である輸送用機器が2カ月連続で増加。株高や追加経済対策（1.9兆ドル）での家計向け現金給付などにより、米国では消費意欲が高まっているとみられる。中国向け（同+1.9%）は伸びが鈍化も、コロナ前（19年10-12月）と比較し高い水準を維持している。
- 品目別でも、幅広い財で増加。半導体需要の高まりから、半導体製造装置の輸出が前年比で大きく増加した（図表3）。中国向けが増加しており、対中規制が強化されるなか、中国企業が半導体関連の確保を進めているとみられる。

3 半導体製造装置



出所：財務省「貿易統計」

4 国・地域GDP見通し (MRI予測)



注：予測値は、ワクチンの深刻な副反応は発生せず、おおむね既往の接種ペース（4月の月中平均）でワクチン接種が進展。集団免疫の達成までは、一定間隔で経済活動の抑制と緩和を繰り返す経済を想定したシナリオ。
出所：三菱総合研究所

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、米中を中心に海外経済が回復するなか増加している。
- 先行きも、回復継続を予想する。米国では、追加経済対策やワクチン接種の加速により、経済回復ペースが高まっている。当社では、米国のGDPが21年4-6月期にはコロナ前（19年10-12月）の水準を回復、2021年は前年比+6.8%の高い成長率となると予測している（図表4）。今後は、中国に加え米国が世界経済の回復をけん引、日本の輸出も米中向けが牽引していくとみる。
- リスクは、半導体需給ひっ迫の長期化だ。デジタル化の加速や経済活動の回復を背景に、半導体需給のひっ迫が続いている。特に、車載半導体の不足は、輸出の約2割を占める輸送用機器への影響が大きい。国内メーカーの火災による供給制約は解消される見込みだが、最先端の半導体を利用する通信を中心に半導体需要は高く、高い安全性が求められる車載半導体の供給はすぐに戻らない可能性がある。車載半導体供給不足が長期化すれば、海外需要が回復するなか増産できず、輸出・生産の下振れ要因となる。